



Relation Gate Magazine

株式会社ここみケア

第**5**号

2024年1月発行

ここさいむら小田原 デイサービス
介護福祉士

荻原 駿

ここさいむら小田原に所属している荻原駿が株式会社ここみケアへと入社したのは、2021年5月のことだ。デイサービスを利用するゲストを迎えるほか、さまざまな業務へ意欲的に取り組んでいる荻原は、どのような思いを胸に働いているのか。これまでの日々を追うと同時に、今後の展望について語ってもらった。

自分に合った仕事

ここみケアへと入社する以前も、デイサービスの仕事に長く携わっていた経験を持つ荻原。とある施設でショートステイの業務に就いていたこともあったが、レクリエーションなどの活動が多いデイサービスの方が自分に向いていると感じたため、再びデイサービスの仕事に携わろうとここみケアへの入社を決意したのである。

「この仕事やこの職場の魅力は、ゲストとより深く関わることができる点だと思っています」。

ゲスト一人ひとりに接する時間も長く、レクリエーションが充実しているため、ゲストと共に自身も楽しみながら仕事をする事ができているという。

笑顔が日々の活力に

ゲストに対して常に明るく笑顔で寄り添う荻原は、デイサービスを心から楽しんでもらうためには、どんな些細な変化でもすぐに対応する点が大切だと考えている。また、ゲストの様子を家族やケアマネージャーへ伝える部分も欠かせない。家族から信頼を得ることで、利用回数の増加や新規の契約につながる可能性があるからだ。

仕事があまくいかずに落ち込む日があっても、ゲストからも「今日もありがとうね」「明日もよろしくね」の声は仕事に励む原動力になっている。それと同時に、働いていてよかったと感じる瞬間もあるのだ。

営業への挑戦

荻原はデイサービス業務や生活相談員の業務を担う一方、営業活動にも力を注いでいる。最初は緊張し、頭が真っ白になってしまっただけの相手からの質問にもうまく回答できないこともあったが、諦めずに取り組んだ結果、徐々に改善。今も先輩から得た情報をもとに営業トークの台本を作ったり、明るくいい印象を持つてもらえるような話し方を意識したりと、さまざまな工夫を続けている。この先も試行錯誤しながら営業スキルを磨き、着実に

実績へとつなげていく考えだ。

向上心を持って 進み続ける

「皆を引っ張って、共に成長できるような職場環境をつくっていききたいと考えています」。

これまで培ってきた経験を生かして、今後は他のキャストや後輩にも技術や知識を伝えていきたいと思っており、後輩からの質問には具体例や理由を交えながら、わかりやすく説明するように心がけている。また、ときには受けた質問から学びを得る場面もあり、自身のスキルアップの機会にもなっていると感じているという。皆が成長していけば、それは会社への成長にもつながっていくに違いない。そう信じ、今後も仕事に邁進していくつもりだ。

仕事への情熱を胸に、荻原の進化はこの先も続いていく。



荻原

駿さん って どんな人？

いるだけで心強い荻原さん。
なんと、頼りになるだけではなく、
コミカルな一面もあるようです。
荻原さんの大活躍の様子を、
ぜひご覧ください。

Q1 荻原さんを一言で表すと？

マルチな活躍



ここさいむら小田原
デイサービス
副管理者
たぐち しんじ
田口 眞治さん

Q2 荻原さんの「すごいところ」を教えてください！

任せた仕事は、いつも期待以上の仕上がりです。是々非々で、前向きな議論ができるところも、すごいところ。自分の考えをしっかりと持ってはいるが、相手の気持ちにも配慮することができる、素晴らしい人です。

Q3 思い出エピソードを教えてください！

突然職員が休んだとき、嫌な顔一つせずに、快く休日出勤を引き受けてくれ、いつも助かっています。新型コロナウイルスの感染が拡大したとき、荻原さんの獅子奮迅の活躍で、乗り越えることができました。

Q4 感謝や激励のメッセージをお願いします！

あなたがいてくれることに、いつも感謝しております。これから主任、管理者と、上を目指していく人材だと思っています。更なる精進を期待します。



Q1 荻原さんを一言で表すと？

みんなに優しい
イケメン



ここさいむら小田原
デイサービス
しばた おりえ
柴田 織絵さん

Q4 感謝や激励のメッセージをお願いします！

いつも、誰よりも頑張ってくれてありがとう。荻原さんがいるととても心強く、いるだけで安心します。大変なこともいっぱいあるけど、これからも一緒に頑張ろうね。

Q2 荻原さんの「すごいところ」を教えてください！

どのような仕事でも手を抜かず丁寧に言い、誰よりもお客様のことを見ているところを「すごい」と感じます。後輩の面倒もよく見てくれていて、頼りになる存在です。

Q3 思い出エピソードを教えてください！

業務中に困ったことが起こると、必ず的確な答えをくださるので、お客様をお待たせすることなく対応することができています。また、お客様との会話中も、言い間違いなどのコミカルなやりとりをして、笑顔にしてくれます。



小規模多機能ここさいむら泉中央

私の事業所のココが自慢!

7名のスタートアップメンバーを中心としたチームワークが自慢の「小規模多機能ここさいむら泉中央」。柔軟な対応が可能だからその事例や今の取り組みを、野郷課長に教えてもらいました!ゲストの夢、キャストの夢の実現に向かって前進あるのみです!



私竹紹介
します!

小規模多機能ここさいむら泉中央
課長/管理者

の ごう とよひろ
野郷 豊弘さん

01 「小規模多機能ここさいむら泉中央」ってこんなところ!

1. ゲスト一人ひとりのニーズに合わせ 細やかにサービスを提供

小規模多機能型住宅介護として、ゲストの状況に合わせて、「通い」「訪問」「宿泊」の3つのサービスを柔軟に提供しています。現在、ゲストは24名。宿泊のみ、訪問のみ、通いと訪問など、さまざまな利用形態があります。その内容も人それぞれ。例えば訪問では、安否の確認、薬の服用、買い物、掃除、状況確認など。週2回、ゲストと一緒にドン・キホーテに行きお買い物に付き合う、というケースもあります。

2. 抜群のチームワーク!

キャストは14名、うち7名は開設当初からのメンバーです。年齢層は幅広く、ミャンマーからの特定技能実習生もいます。全員が介護に対して熱い思いを持ち、言いたいことを遠慮なく言い合える仲。たまに意見がぶつかってもすぐに解決方法を導けるのは、長年のコミュニケーションとチームワークの賜物です!

02 ココが自慢!

目指すは日本一挨拶のできる 多機能事業所!

接遇力の向上のために、「挨拶日本一」の事業所を目標にしています。私の前任の認知サービスでの取り組みを当事業所でも6月から採用。まず、キャスト一人ひとりが立ち止まって顔を見て、明るく元気に声をかける。それが、事業所の誰でも、どんなときでもできる。毎月多数決でNo.1キャストを選ぶなど、みんなで楽しく取り組んでもらっています。実践して半年、名前を読んだからの挨拶が定着し、ゲストとキャスト、キャスト同士の馴れ合いもなくなったと感じています。

03 「他事業所には負けなし!!」 その魅力

ゲストの「したい」を一緒に叶える!

重点項目に「ゲストの“したい”を実現、“できる”をお手伝い」を掲げています。日常会話の中からニーズを汲み取り、プランができたならゲストが忘れないうちに即実行です。ご主人との松島訪問が楽しみだったというゲストとは、松島の思い出の地巡りをしました。行く前から涙ぐまれていて、後からお礼のお手紙を頂きました。秋保(あきう)で足湯に浸かり、有名な「さいち」のおはぎを購入。また、若い頃通勤途中に毎日国分町あたりの焙煎珈琲のお店に通っていたゲストとは、泉ヶ岳のコーヒョップに行きました。仲の良い2名のゲストも一緒に行き、美味しいコーヒーとケーキで過去の恋愛話に花を咲かせ、女子会のような様子で(笑)ゲストの皆さんができないと諦めていることを、できるだけ実現したいと考えています。今はまだ3名だけですが、全員分を実現した後も継続するつもりです。



04 今後の目標

キャストの夢を共に育てる場所に

キャストのやりたいこと、なりたいものへのバックアップも重点項目の一つ。私は実現に向けて、フォローアップしていきたいと考えています。ゲストへの関わり方、理想の事業所づくりなど、話し合いながら前進しています。4月の着任後、キャストの皆さんには6月までに目標を立ててもらいました。先月、面談で経過を確認し順調な方、滞っている方、それぞれをサポートしています。最終的には、私抜きでも運営できるようになることが理想です。

05 一緒に働く 皆さんのメッセージ

3つの重点取り組み項目を達成できるよう、全員で力を合わせていきましょう!仲良く楽しく、明るく働きやすい事業所づくりをしたいと思っています。



皆さんの投稿・投票によって行っているこの企画！今回はコロナ禍でなくなってしまった、地域住民との交流を復活させるべく一歩踏み出した取り組みをご紹介します！皆で食べる美味しいごはんは、関わった人皆を笑顔にするパワーがあるようです。

新米食べ比べ&芋煮会

11月18日、美の里のある桜木地区で毎月開催している認知症交流カフェ（通称：桜木カフェ）で、新米食べ比べ&芋煮会がありました。美の里キャストの松本さん、萱場さん、朝早くから60人分の調理をお手伝いいただきありがとうございました。美の里のゲスト数名はカフェの最初のプログラム、体操に参加。一般の方向けなので、いつもよりハードな体操でしたが一生懸命体を動かしていました。食事ができたところで他のゲストもカフェに集合し、地域住民の方たちに交ざって新米おにぎり食べ比べと芋煮を堪能。芋煮もおにぎりも地域の方々から

「おいしい、シェフは誰？」と大絶賛。普段と一味違う楽しい時間を過ごしました。ちなみに今回の食べ比べた新米は、「つや姫」と「秋田こまち」。いずれ劣らぬおいしさでした。来年は美の里恒例「さんま祭り」復活……かも。



11月度 月間MVP/

投稿者



小規模多機能
ここさいむら美の里
課長/管理者

しょうじ ともこ

庄司 智子さん

投稿日：2023.11.21

庄司さんに投稿内容について詳しく教えてもらいました！

行事開催までの経緯や工夫点、感想を教えてください！

開催までの経緯

美の里の恒例行事「さんま祭り」がコロナ禍でしばらくできていないため、「久々に皆で食事会をしよう！」と提案しました。「桜木カフェ」では普段は地元のケアマネが集まって、認知症についての講座や運動などを地域住民向けに行っており、今回はこの桜木カフェのイベントとして開催。参加した地域住民はいつもの約2倍の30名、美の里ゲストが13名、キャストが6名、その他スタッフを合わせて約60名の大イベントになりました。

当日の工夫点

地域住民から普段何のお米を食べているかを聞きとり、皆が食べていない銘柄を選びました。またおにぎりは食べ切れるように小さめにし、お米の味が分かるようトッピングはごまと塩のみ！芋煮は皆が食べ慣れている仙台風に仕上げ、肉は桜木唯一の個人精肉店で調達し地域貢献も意識しました。

感想

ゲストと地域住民が触れ合ったことで、地域住民の認知症への理解が深まったと感じます。一緒に話したり食事をしたりすることで、「認知症の人も私たちと変わらないじゃん」とポジティブに捉えてもらえるきっかけになったのではないのでしょうか。久々の食事会で、キャストの皆も「いや一楽しかった！」と大満足でした。



一緒に働く皆さんへ メッセージ

むちゃぶりばかりしても、皆快く受けてくれるので提案のしがいがあります！いつもありがとうございます。

教えて！

グループホーム

グループホーム部門のこと

今回は、当グループのグループホーム部門を紹介します。今回は代表して、部会マネージャーの坂本さんにお話を伺いました。唯一の入所施設であるグループホームの運営には、「地域へのつながり」が深く関わっているとかが、いったいどのような活動をされているのか、ご注目ください！



グループホームここさいむら 管理者
課長代理 兼 グループホーム部会マネージャー

さかもと しげあき
坂本 茂明さん

グループホーム部門とは？

1ユニット9人のゲストが暮らす 地域密着型の施設を運営

グループホームここさいむら小田原では、管理者含めてキャスト14名ですが、多様な働き方を選んでいただくこともでき現在のキャストの年齢層は20～60代と幅広く、未経験のパートさんでも正規職員と同様に活躍できる働きやすい職場です。

ゲスト一人ひとりの生活にあわせ、個別性を重視した支援を心がけています。

介護の専門的な資格は働きながら取得できるように会社から資格取得サポート制度がありますので、キャストが計画をたててチャレンジできるのも特徴の一つです

グループホーム部門ならではの工夫

1. 住み慣れた地域のなかで安心して住み続けられる

地域とのつながりを大切に、グループホームに入所したことによって地域とつながりが途絶えることがないようにしています。地域とのつながりは、地域行事の夏祭りやふるさと祭り、お花見などへ、住み慣れた地域の町内会のイベントでつながり、幼稚園や保育園との交流、子供会への協力などがあります。地域住民向けの認知症の勉強会の依頼などをいただき、ご協力をさせていただくこともあり、様々な交流の機会を大切にしています。こういったつながりを通して、**ゲストの皆さんには日常生活の延長のように感じていただきたい**と思っています。ここ数年はコロナの影響で頻度が減っていたのですが、これからはまた少しずつ増やしていくつもりです。

2. ゲストの「その人らしさ」を重視

介護の仕事は、ゲストが主体！！
一人ひとり異なる、人生のストーリーに、キャストはどこまで寄り添っていきことができるか……。ゲスト一人ひとりが主役です。できるだけ多くのかかわりを持ち、日々のコミュニケーションを重ねていくことでは、たくさんの「その人らしさ」を感じることができそこから生まれる何気ない支援からでもたくさんの笑顔に出会うことができうれしさと共に充実感を感じています。

問い合わせ、リピート率を増やすための工夫

多様なサービスで人生を丸ごと支援できる強み、 また、運営推進会議は地域への絶好のアピール場所

ゲストの人生のステージごと、その瞬間、その人にとって必要な支援は様々、グループ内の多様な事業所形態は、人生まるごとサポートできる強みをもっています。営業活動と同時に地域への情報発信も稼働率につながり、一つは2か月に1回開催される、運営推進会議もそのひとつ、地域のなかで事業所としての役割をアピール、日々の

運営をオープンにしながら、地域のなかでも大切な資源と認識していただけるように、町内会の皆さん民生委員、地域包括支援センターのご担当者などに向けて運営報告を行っております。**日々の活動報告がそのまま施設の評判につながります**ので、ある意味では営業活動の場と言えるのかもしれない。

\\ グループホーム部門の紹介文句はコレ! //

看取りの瞬間まで 立ち会わせていただくことの感謝と尊さを持ち、 ご支援させていただいております!

住み慣れた地域で安心して生活していただくためには、一人ひとりの家庭的な雰囲気
の追求は非常に大切なものになります。
皆様の人生に一時でも携われる瞬間をお
許しいただいたことへの感謝の気持ちを忘
れずに、お一人ではできなくなったところ
に対してその人の「思い」を感じながらご支
援させていただきたく思っております。



他部署のみなさんへ

唯一の入所施設として、これからも尽
力し、グループに貢献していきたいと
思います。もし施設への入所について
詳しく知りたい方がいらっしゃいま
したら、いつでもお声がけください。

\\ 連絡先はこちら! //

グループホーム
ここさいむら小田原
022-253-7543



Relation Gate Magazine

株式会社ここみケア
社内報「Relation Gate Magazine」vol.5
2024年1月発行